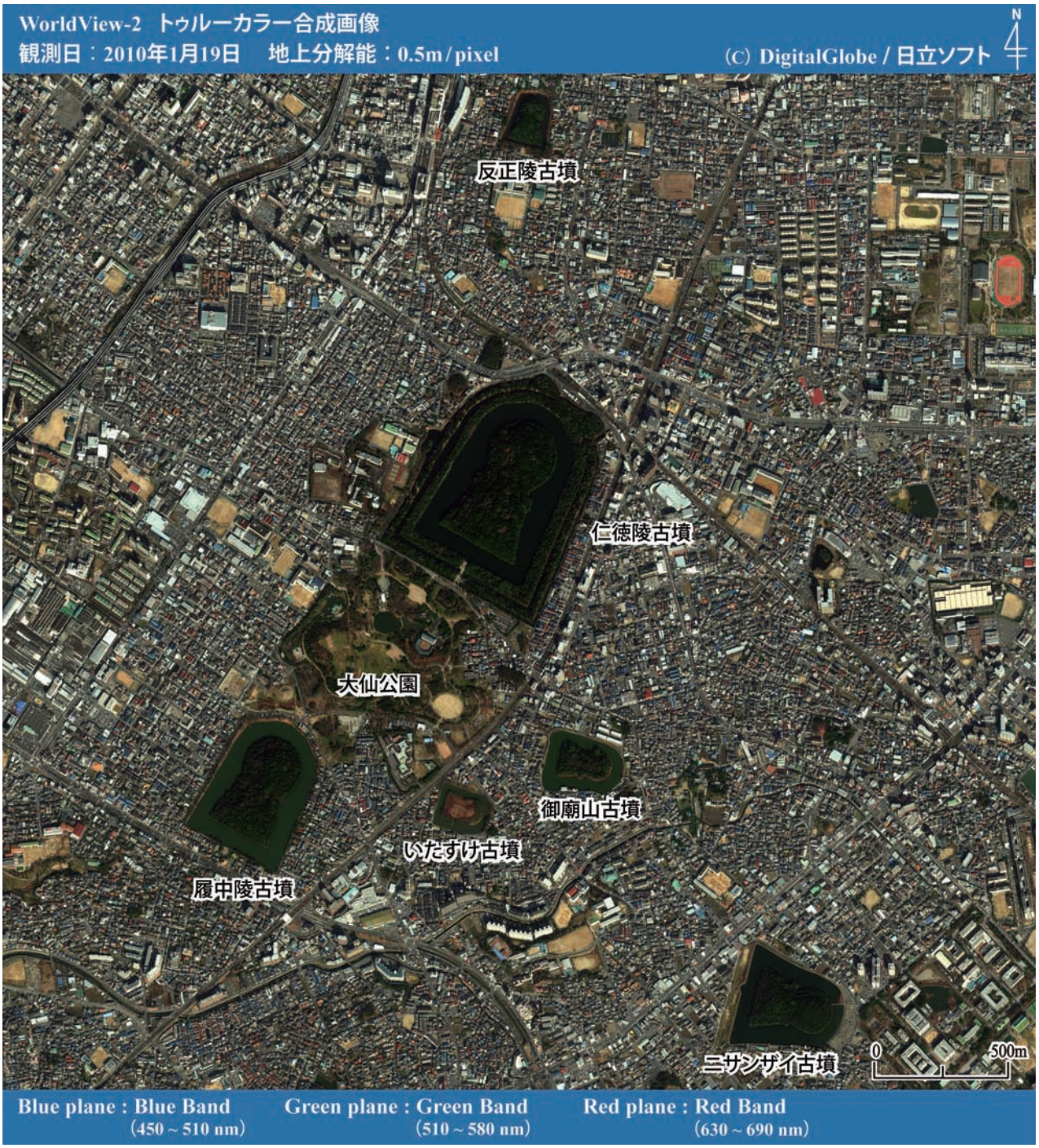
人工衛星WorldView-2がとらえた「仁徳陵古墳周辺」（1）

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌98号から人工衛星WorldView-2から見た「国土の姿」を紹介します。WorldView-2は、2009年10月8日（米国日付）に打ち上げられました。可視域から近赤外域にわたって「Coastal、Blue、Green、Yellow、Red、Red Edge、Near Infrared 1、Near Infrared 2」といった8種類の観測バンド帯を有するマルチスペクトルセンサが搭載されています。パンクロマチック画像で0.46m／画素、マルチスペクトル画像で1.8m／画素の地上分解能を実現しています。下図は大阪府堺市大仙町にある仁徳陵古墳周辺のトゥルーカラー合成画像(Pan-sharpened image：地上分解能0.5m／画素として処理）です。仁徳陵古墳（画像中央部）、反正陵古墳（画像上部）、履中陵古墳（画像左下部）を合わせて百舌鳥（もず）三陵と呼ばれています。仁徳陵古墳とその南西にある履中陵古墳の墳丘長は、それぞれ486mと360mです。周辺の建物と比較してみると、仁徳陵古墳の大きさを窺い知ることができます。4世紀後半から5世紀後半の人々の生活に思いをはせつつ、画像を判読してみて下さい。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html